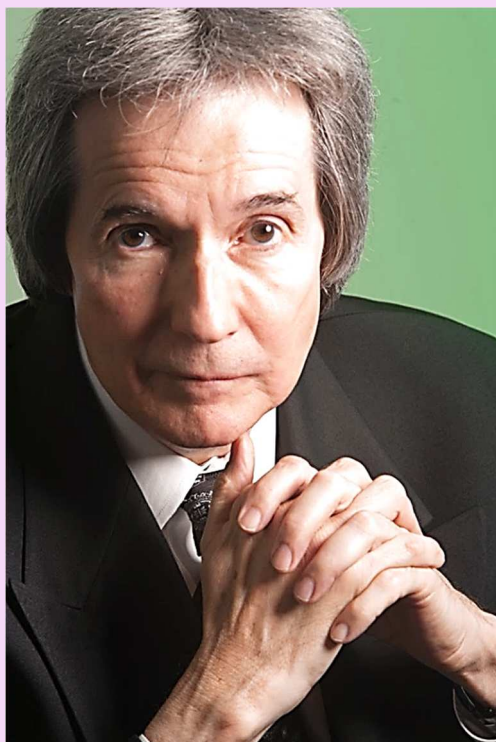


ビル・ウィルソン・セミナー開催！

— 参加されるかどうかは、あなたの人生を左右する大きな決断です —



セミナーの日程や開催場所についての詳細は、同封のチラシをご覧ください。

今年も、日本の皆様にお会いできるチャンスが与えられたことを本当に嬉しく思っています。この働きが続けられるのは、皆さんの支えがあるからです。いつも心より感謝しています。

このセミナーにご参加いただくためには、様々なことを犠牲にする必要があるかもしれません。しかし、どうぞあらゆる努力をしてセミナーにご参加ください。

私がここまでお願いするのは、ただ単に皆様にお会いして、活動のご報告と感謝をお伝えしたいからだけではありません。この小さな決断は、あなたご自身の人生に関わる重大な決断になると信じているからです。

人生の時間には限りがあります。あなたも例外ではありません。その限りある人生の中で、何をするか、どのようなことを達成するかは、あなたの一つ一つの小さな決断にかかっているのです。小さなひとつの決断の積み重ねが今のあなたのいる場所を決定しているのであり、これからのあなたの人生のゆく場所を決めるのです。

このセミナーの中でお話しする内容は、単にかわいそうな子どもたちのお話ではありません。親に捨てられ、何ひとつ持たなかった私が、世界中で毎週 17 万人以上もの子どもの人生に影響を与える働きをするようになったのはなぜか。そして今、皆様のご支援によるメトロの働きを通して、世界中で何が起きているのかぜひお伝えしたいのです。

このセミナーに参加されるという決断は、必ずあなたの人生に価値ある結果をもたらすことと信じています。どうか、万難を排し、友人知人と一緒にご参加ください。

あなたと会場でお会いできることを期待しています。

ビル・ウィルソン

2017 年セミナー日程

東京：7月20日(木)

関西方面：7月21日(金)&22日(土)

岐阜：7月23日(日)

沖縄：7月28日(金)～30日(日)

— その他の地区も現在調整中です —

今月号の目次

P2～4…フィリピンツアー参加者
のご感想

P4～5…メトロ・フィリピン視察
のご報告

P6…日本事務所からのお願い／
万代牧師からのごあいさつ
／日本事務所の情報

フィリピン視察ツアーのご感想-2

4月6日～9日にかけて開催しましたメトロ・フィリピンの現地視察ツアーにご参加くださった方のご感想、第2弾です。

梅垣博美様からのご感想

この度はフィリピンメトロの訪問企画をして頂きありがとうございました。里親を始めて3年、一度会いに行きたいねと、よく夫婦で話していました。ビル師が同行出来なくなって、企画が現実になることが難しくなったと思われ、どうなるんやろう、という心配がありました。が、万代師と三木さんが重荷を持って企画して下さい、本当に素晴らしい旅となりました。心から感謝しています。

フィリピンは事前情報から危険やと聞かされていましたが、主は何事もなかったという奇跡を与えて下さいました。全く平安な中で旅になったのは、主とメトロのスタッフの守りの中にあつたからやと思っています。このこともホンマに感謝しています。

今回の旅で私たちの最大の目的は里子に会うことでした。今まで手紙のやり取りはしていたのですが、やはり百聞は一見にしかずで、行けて良かった。というのが素直な感想です。



彼女はとてもシャイな子で、プレゼントを渡した私たちに對して戸惑いを隠せないようでした。でも、一緒に食事をした後にはスタッフを間に会話をすることが出来ました。そして、彼女には夢があることがわかりました。これからもその夢の実現の一助を担えたらイイな、と思っています。

また、彼女が本当に信仰を持っているのか、ということも関心事でした。これもまた、メトロの優れている部分だと確信します。子ども達を把握し、訪問し、ハグして愛を示し、しっかり福音を語っていくその姿勢は本当に教えられることばかりでした。

里子の住んでいる地域を担当しているスタッフを見た彼女の顔が急に輝いた様を見て、彼女はホンマにそのスタッフが好きなんやなあ、と知り、そのスタッフにそれを伝えました。すると、そのスタッフは「あなた方が書いている手紙を持って彼女に会いに行くようになってから、彼女は引込み思案から少しずつ変えられ、とても明るくなっていったんだよ。」

と教えてくれました。

お互い拙い英語のやり取りだけで、どんな風に思っているのだろうか、ホンマに気持ちは伝わっているのか、など思っていました。スタッフが足を運ぶきっかけになってることを知り、また彼女が明るくなっていった話を聞いて、主にあつては一つ無駄なことはなく、全てを用いて益として下さる主に賛美しました。



出会った2日目のサンデースクールの時には彼女から傍に寄って来てくれました。主人の足にまとわりついている彼女を見てどれだけ嬉しかったか。楽しくサンデースクールに参加している姿も見て主に感謝しました。チャンスがあれば、再び会いに行きたいです。

最後に、里親として私たちが出来ることはホンマにわずかもかもしれませんが、主の名によってメトロのスタッフと一つになって1人の人生に関わることの出来る恵みをぜひ多くの人に味わってほしいと思います。

メトロの働きが更に祝福されることを祈ります。

梅垣秀人様より

梅垣様ご発行のHeavenのニューズレターより一部転載

実は2年ほど前から、いわゆるフォスターペアレントという海外の発展途上国などの子供を支援する里親制度に入りました。私たちは今回、そのフィリピンのメトロ・ワールドチャイルドのマニラ支部を訪問したわけです。このマニラ支部ではマニラ市内の数か所のスラムで5人ほどの専属スタッフとマニラ市内の教会からくるボランティアたちで路上日曜学校（サンデースクール）を実施している。世界中からクリスチャンのボランティアが研修生として来ています。



私と妻の目当ての一つは自分たちが里親になっているジョランという子に会うことでした。外国語での手紙のやり取りだけではわからないので、実際どんな環境で生きているのか知りたかったのです。両親は離婚していておばあちゃんと暮らしていました。最初に案内されたスラムで彼女と会ってプレゼントを渡すことができ、家族とも一緒に食事することができました。ジョランは私たちの支援で学校に行っています。

このスラムはほとんどが3畳から6畳くらいのベニアとトタンを組み合わせた粗末な建物の部屋に、家族4～10人も一緒にすし詰めで住んでいるところです。



メトロのスタッフの半分はこのスラムで生まれ育ち、自分たちも大人になって同じ境遇の子供たちを助けるために毎日このスラムに入り、家庭訪問を続けています。スラムの人々は仕事がなく多くがゴミの山からごみをあさって、売れるものを分別して一日500円ほどの収入を得てそれでその日暮らしをしている人々です。だからスラムの子供たちは学校にも行けません。メトロはそのような子供たちを探し出し、海外の里親に紹介する仕事をしていますのです。学校を卒業できれば何らかの仕事にありつけスラムから出ることもできます。でなければ一生ゴミ拾いか、売春や麻薬の売人になって行くしか生きる道がありません。

つまりメトロは子供たちの未来を大きく変える活動をしているのです。

メトロのサンデースクールは、子供たちの教育や生活支援を支えるだけでなく、その根本にあるのはキリストの福音を伝えることです。創始者であるビル牧師が世界の最も危険な地域に乗り込んで子供たちを救出しているのは、自分がその境遇から救い出してくださった神様に対する畏敬の念と愛からです。

私たちの参加した最初のサンデースクールは、なんと墓場に住んでいる子供たちでした。ホームレスが墓場に住み着いてブルーシートなどを張って雨露をしのいでいます。大人が等身大の墓石の上で昼から横になって寝ていました。奥には人間の骨が捨てられていました。

スクールのチラシを1時間ほど前から配って歩き、子供たちが集まってきます。子供たちにはお菓子やパンの配給、炊き出しなども行いますが、日曜学校を通して歌やダンス、ゲームで楽しむだけでなく、同時に規律を教え、神様からくる



正面に見えるのは、すべてコンクリートでできた大きなお墓

愛と希望を教えます。

この日はスタッフによるディズニーの「美女と野獣」の劇と、イースター（復活祭）前でしたので、イエス・キリストの復活の話がありました。イエス様が私の罪を背負い、身代わりに十字架について死んでくださったこと。三日目に復活されたこと。悔い改めて心にイエス様を受け入れるなら神の子供となれること。生涯自分を支え導いてくださることなど、神の愛と希望を知ることになります。

子供たちはみんな祈り、中には突っ伏して泣いて起き上がれない子もいました。私自身が離婚して子供を引き取り、キリストの福音によってその後の人生を神様に支えられてきたものですから、その気持ちがよくわかります。貧しい境遇にある子供たちにとって信仰がどれほど心の支えになるかは、生活に恵まれ、困れば生活保護もある普通の日本人には、なかなか想像つかないものかもしれません。

三日目はスモークマウンテン（ゴミの山）のふもとにある団地のバスケットコートでのサンデースクールでした。一回の集会に100人から400人の子供が集まります。メトロのスタッフは子供たちに大人気です。スタッフに子供たちは駆け寄り、ハグします。この日は教会のボランティアたちによってパスタスープが配給されました。

団地の裏はゴミの山です。フィリピンでは主要産業がなく、国民の多くが国外に出稼ぎに出ます。しかしそのお金もない人々はこのゴミの山でゴミを分別して売り、その日一日の家族の糧を得ているのです。

[次ページへ続く](#)



前ページからの続き

しかし私たちが救われたのは、子供たちはみな輝くような笑顔で、屈託がなく人懐っこいことです。どこでも子供たちは手を振りハイタッチしてきます。それもメトロのスタッフたちが10年もかけてこの地域に築いた信頼関係からきているのかもしれない。

スタッフはほとんど20代で若いのですが、多くがこのスラムで育ちメトロのサンデースクールで救われてこの活動に入ってきたボランティアたちです。彼らは本当にパワフルで献身的です。また海外の研修生には日本の教会から来た藤林パウロ君や宣教師の娘として長野県で生まれたアメリカ人のハンナさんなど日本語のしゃべれるスタッフもいました。



スラム出身でメトロの働きに使命を持つボランティアたち

ハンナさんは子供のころ日本でいじめにあい、自分に自信のないことに長年悩んでいましたが、ビル・ウィルソン牧師と出会いメトロに参加、25歳の時すべてを捨ててスーツケース二つだけ持ってこのマニラにやってきました。今では大渋滞のマニラ市内の車を縫って大型車を運転し、スラムの奥の奥まで入って行って、子供たちに声をかけ、親たちに信頼されています。そして子供たちと私たちの橋渡しをしてくれています。

さて、私たち日本人はどうでしょうか？



日本語の話せる現地スタッフ、ハンナさんと梅垣様ご夫妻

日本は恵まれた国です。確かに障害を持つ人や社会的弱者はいます。しかしそれを支えるのは国がやればいいんだ、そんなことは国がやることだと思ひ込んでいないでしょうか？自分のお金を使い自分の労力を使って人のために何かをする。

そんなことよりも自分のことだけ考えて人は人、おれは俺という風になってきていないでしょうか？フィリピンは貧しいです。しかしどんなに貧しくても家族を大切にします。みな寄り添って生きています。子供がとっても多いです。スラムでも福祉に頼らず生きているというたくましさを感じました。

最後に引率して下さった松山福音センターの万代栄嗣牧師に感謝です。



メトロ・フィリピン視察ツアーのご報告2

美しく広大な墓地に住む人々

初日に訪れた墓地には、上流階級の人から貧しい人まで、あらゆる人々が埋葬されています。この墓地の入り口の広場で、メトロの道端教会学校を開催しています。

広大な敷地の墓地には、柵で囲まれた屋根付きで、人が住めるほど大きな墓地から、コンクリートのロッカーが積み重ねられたような共同墓地まで、所狭しと建てられていて、入り組んだ迷路のようになっています。その隙間や、時には大きな墓地の中にまで、多くの貧しい人々が木っ端やぼろきれで囲いを作って住み着いています。

当然ながら政府は、この事態に手を焼いており、外部に知られることを好みません。そのため、ここでの写真撮影は厳しく規制されていますが、本来なら観光地になりそうなこの美しい墓地を撮影したいという衝動に誰もが駆られます。



この後、迷路のような墓地の奥まで入り込み、そこで暮らす人々に会いましたが、撮影は危険すぎますし、スタッフもピリピリしていますので、残念ながら写真はありません。

3日目の活動

午前7時にホテルを出発して、マニラ北部へと移動し、まず午前8時半からの道端日曜学校に参加。河口近くのスラム街の一角で、子どもたちの数は100名あまりでした。

場所を移して、午前11時から、ゴミの山として有名なスモークマウンテンを移動させてきた団地の一角の屋根付バスケットで開

催される日曜学校に参加。300名ほどの子どもが参加していました。

昼食をショッピングセンターで簡単に済ませて、午後3時から、同じ団地内の別の地区に移動して、この日第3回目の教会学校に参加。

ここでも300名以上の参加者だったのですが、途中、小さな地震に見舞われ、心配した親が迎えに来て、100名ほどが中座してしまいました。教会学校を早く終わらせる必要を感じたスタッフは、急遽、ゲームなどを省いて、福音のメッセージを中心とした短縮プログラムに変更。どのような状況でも、最も重要なことを見失うことのない、一貫した姿勢を実感しました。

一日を通して、子どもたちに向かうメトロのスタッフたちのエネルギーがものすごく、とにかく感心！ 信仰の熱意が、みんなほとばしり出ています。集会後も、周囲のゴミの收拾で生計を立てている人々の貧しさを目の当たりにし、川べりのスラムに立ち入ったり、スモークーマウンテンに登ってゴミの山になお住み続ける人々の事実に触れて、一同、大きな衝撃を受けました。



すべてがゴミでできた山「スモークーマウンテン」
足下の土は、ゴミが腐敗や風化してできたもので、今では草木が生えて森のようになっている。
本当の山のように大きくて、この奥に、たくさんの貧しい人々が、小屋を建てて住み着いています。
ゴミは、彼らにとって収入源であり、住処でもある。
大変危険な地域で、ここに立ち入ることができるのは、メトロのスタッフがいるから。

スラム街は街の至る所に点在していて、ここはその中のひとつ、川沿いにできたスラム街。

川に張り出して建て増しされていて、実は川の上。

下を流れる川は、ゴミだらけで、水草が生え、まるで地面のように見えている。豪雨になればすぐに水没する地域。

彼らには、他に居場所はないが、不法に居住し、電線から無断で線を引いて電気を使う彼らは、国の悩みの種。



予期せぬ地震発生でフィリピン人を知る

この日は、道端教会学校の開催中に地震が発生。と言っても、私たちには体感できないほどの微震。

それでも震源地周辺では、建物が一部倒壊するほどの規模だったようで、ニュースでは、大地震が来るから注意するように、という緊急放送が流れたようです。

それを知らない私たちには、教会学校の途中でぞろぞろと子どもがいなくなる理由がわからなかったのですが、親たちが子どもを迎えに来て、帰ってしまったのです。

スタッフによると、今にも崩れそうなバラックの家よりここにいた方がよほど安全なのに、迎えに来るそうです。

理由は、フィリピンの人々にとって、最も大切なのは家族であり、このような大変な時に、離ればなれでいることは考えられないからだということでした。

日本語通訳付で礼拝に出席

最終日の日曜日の朝は、午前7時にホテルを出発して、New Life での午前8時からの礼拝に、みんなで出席。

早朝の礼拝だから少なめかと思っていたのですが、それでも500名くらいは集まっていた、大変恵まれた礼拝でした。ポール・チェイス先生のメッセージもわかりやすく、感謝でした。そしてここでもハンナさんが、素晴らしい日本語に通訳をしてくださり、全員がメッセージを理解することができました。

この教会は、メトロの協力教会の一つで、昨日の道端日曜学校の時の炊き出し、給食に協力してくれていますし、メトロのフードトラックをいつも運行してくれている教会です。今日も教会の前に、フードトラック(キッチンカー)が止まっていました。

手頃な広場がある理由

フィリピンには、メトロが教会学校を開催するために、大変手頃な広場が、不思議なくらいたくさんあります。それは野外バスケットコート用の広場です。スポーツ振興によって、若者や子どもの犯罪を防ごうと考えた政府が、ボールひとつでできるスポーツ、バスケットを選び、あらゆる場所に広場とゴールを設置したのです。

教会学校が終わると直ぐに、子どもや青年が集まってバスケットを始め、私たちにも参加するよう親しく声をかけられます。日本では見られなくなった、子どもたちの人なつっこさに嬉しくなって、思わず参加したくなります。

次回は最終回。ぜひお楽しみに。



集会にうってつけの屋根付きのバスケットコートで。日本人の訪問に、子どもたちは大喜び

日本事務所からのお知らせとお願い

メールの重要なお願い。 受信にご注意ください！

いただいたメールには、必ずご返事をしていきます。万一返事が届かない場合は、削除ボックス（ゴミ箱など）をご確認ください。

探しても見当たらない場合は、お手数ですがお問い合わせください。

受信できない理由は様々ですので、完全に解決することは難しいのですが、メトロのメールアドレス（metrojapan@mission.or.jp）を、アドレス帳にご登録いただくと、受信できるようになる可能性があります。

前回もお知らせしましたが、FAXの場合は、裏表の送信方向にご注意ください。

メトロと万代牧師のフェイスブックをご活用ください！

万代牧師のフェイスブックでは、メトロの活動をはじめ、各集会の予定などを随時発信していきます。リアルタイムでの情報をご希望の方は、ぜひご活用ください。

 「万代栄嗣」で検索！

または右のQRコードから



メトロのフェイスブックは

<https://www.facebook.com/metrochildjapan/>

ビル師、万代師の、「偽物」のフェイスブックやLINEにご注意ください！

個人的な送金依頼は絶対にしませんし、口座は、レポートでお知らせするもののみです。



ビル・ウィルソン師のセミナー開催日程決定！

今月は、21日から1週間、ニューヨークのメトロ本部ビルでの国際会議に出席してきました。

世界各地で実際に活動を展開しているスタッフの責任者たちと、それを支援する各国の事務所の代表が一堂に会しての、初めての国際会議でした。

昨年、メトロの本部ビルが完成しましたし、ここ10年ほどで、活動は世界中へ急拡大し、今後もさらに多くの国への展開が予定されています。

今、この大きな転換点で、お互いの働きの内容と、これから始まろうとしている働きについて、重要な事柄を確認し、親交を深め、それぞれの信仰とこの働きに対する使命を確認し合う重要な時となりました。

ご支援いただいている、アメリカ、フィリピン、ケニ

アの各国代表にも直接現在の働きの状況を聞くことができました。

そして、7月のセミナーについても、ビル先生と直接打ち合わせてきました。

スポンサーとして、また、祈りと献金によるご支援を通してこの働きを支えてくださっている皆さんはもちろん、参加されるすべての方々にとって、必ずお役に立つ内容になると確信しています。

どうぞ、仕事を休んででもご参加いただけるよう、今から調整をお願いいたします。

皆様の上に、主の豊かな祝福と恵みを祈りつつ。

日本事務所代表 万代栄嗣

メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン